

## 令和3年度 第1回栃木市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和3年7月12日(月) 午前10時00分～午前11時07分
2. 場 所 栃木市役所 庁議室
3. 出席者  
(構成員) 大川秀子 市長、青木千津子 教育長、後藤正人 教育長職務代理者、福島鉄典 委員、西脇はるみ 委員、大橋孝子 委員、舘野知美 委員、林慶仁 委員  
  
(事務局) 増山 総合政策部長、横倉 総合政策部副部長兼総合政策課長、名淵 教育次長、金井 参事兼教育総務課長、杉村 美術館長、中山 文化課主幹、他担当職員

### 4. 内 容

#### 1 開 会

#### 2 あいさつ

##### ○大川市長

お忙しい中、第1回総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、日頃から市政運営並びに教育行政に多大なるご協力をいただきありがとうございます。

自然災害やコロナ等で、毎日の不安が払拭できない状態が続いています。また、コロナに関して本市は新規感染者が0人になかなかならない日が続いております。小・中学校においても感染者が出ておりますが、クラスターへは発展していないことから学校教育現場の皆様にご苦労いただいていることに感謝いたします。日常業務以外のご苦労が増えているとは思いますが、今後も引き続きよろしく願います。

本市の65歳以上対象のワクチン接種が順調に進んでおります。間もなく60～64歳の接種が開始されるなど、優先接種も開始できる環境の準備ができております。優先接種の対象として、小中学校の教員、幼稚園保育園の先生方等を設定しておりますが、早く安心できる教育環境を整えたいと思っております。

また、誠に残念ながら千葉県で通学路にトラックが突っ込む悲惨な交通事故が発生してしまいました。本市においては新学期早々危険箇所の点検を各学校で実施しておりますが、改善すべき箇所は早急に改善したいと考えています。保護者にとって一番心配なのは通学時の交通事故だと考えておりますので、早急に取り組んでまいりたいと思っております。

本日の議題につきましてもよろしくお願いいたします。

#### 3 協議・調整事項

##### (1) 次期教育大綱の策定について

##### ○事務局

※資料により説明

##### ○大川市長

事務局より説明がありました。皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思います。

##### ○福島委員

3 ページの基本理念に人権尊重等があり、その下の取り入れる新要素についていろいろとあるが、プラスのことばかり記載してあり、子ども達の貧困問題やヤングケアラー問題等の記載がないので、負の部分の記載もお願いしたい。

少子化が進んでおり、女性が結婚・出産しないことが今後問題になってくると思うので、教育の中に女性に優しい社会づくりの内容を盛り込んでほしい。子供の頃からの教育が非常に重要である。

○事務局

重要な課題である。また、いじめや適応指導などの問題も含めて教育的課題として捉えている。今後、大綱や教育計画策定の際に取り込んでいく。また、女性をはじめ皆に優しい教育も協議検討させていただき、今後の総合教育会議に諮ってまいります。

○市長

誰一人として取り残さない取り組みを具体的にどう取り組むのかが重要だと思うので、盛り込んでいければと考えている。

○大橋委員

20年程前に小学校の教員をしていたが、その当時大変忙しく思っていた。そのような状況だと先生達の心のゆとりがなくなっていき、そのしわ寄せは子供へ行くということがあると思う。事務を行うパートさんを雇う等により先生の負担を軽減できるように、まだまだこれ以上にお金をかけていくような内容を盛り込んで欲しい。

また、コロナ禍により色々なことがずいぶん変わった。これは大きく変えることのできるチャンスでもあると思う。新しいことが入ってきてても古いものが変わらない体質があった。新しいことを取り入れるために古いことを切り捨てる英断が必要になってくる。思い切ったことをしても良いのではないかと思う。先生方の負担を減らしながら良い教育ができるような形をお願いしたい。

○市長

時代はどんどん変わってきているので対応していかなければならない。

○後藤委員

教育大綱を作った後、どの様に活用されたのか等の検証が重要である。昨年、市民憲章制定に諮問された際にもずっと言い続けてきたが、作って終わりではなくどう活用するのか、それを大切にしてもらいたい。私の大学の授業でも90分使って市民憲章の内容を扱っている。文面は行動目標となっていてわかりやすくなっている。市民憲章を柱として教育大綱を検討してもらいたい。

また、栃木市の教育を語る際にまず上がるのが「とちぎ未来アシストネット」であり、過去の実績において全国に先駆けて実践し、大変多くの成果を得ている。そういった部分も教育大綱に盛り込んでいただければ、栃木市らしさが出てくるのではないか。

不易流行をどのように考えて記述していくか。教育は大きな流行のうねりを察知しなければならないが、変えてはならないこともある。コロナ禍において不易流行が散見された。この教育大綱においても不易と流行をバランスよく記述していくことが大切である。

○事務局

従来の教育大綱に盛り込んでいた山本有三先生の教えと市民憲章の融合を検討していく。これまで培ってきた大切な部分を残しながらいかに新しいものを取り込んでいくか考えながら策定していきたいと考えている。

○林委員

特定の分野に関心や興味を持つ生徒を伸ばす教育も目指してほしい。突出して夢をもって上を目指していけるような育て方を旨とする内容を盛り込んでほしい。

○市長

子供たちが小さい頃から夢や希望を持てる教育が大切だと思う。

○教育長

誰一人取り残さないことも大切だし、もっと伸ばすべき子への教育も大切。どちらも救って伸ばせるような教育を行っていったらよいのではないかと思う。

学習指導要領が順次改定となった。新しい言葉がたくさん盛り込まれ大きく変わったように見えるが、本質は変わっていない。不易と流行を見極めつつ大綱や教育計画を策定していきたい。

○市長

今後も何回か協議して頂きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

## (2) 市立美術館・文学館について

①基本構想及び基本計画に基づく施設整備コンセプトについて

②開館に向けたスケジュール（準備内容及び重点的な取組について）

③美術館・文学館に望むこと

○事務局

※資料により説明

○大川市長

事務局より説明がありました。皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思っています。

○林委員

市の文化や美術の発掘、鑑賞教育、集客の3つを目標にしたいと美術館長は言っていたが、この3つ目の集客に関して、お茶するところが作れなかったのが非常に残念だったが、近所の喫茶店などを案内するパンフレットを設置してほしい。

○事務局

美術館にはそのスペースはないが、文学館1階にとちぎサロンを設けている。また、同時に観光のパンフレットを設置する予定である。広場にキッチンカーを呼び、賑わいを出すことも検討している。

○市長

コロナ禍において飲食店はなかなか経営が難しい実情がある。平日が大変厳しいそう。広場にベンチやパラソルでも置いてキッチンカーでの食事、文学館の中での休憩等できれば良いと考えている。

○後藤委員

栃木市の街並みを見たときに店が閉まっているのが目立つ。美術館の開館時に街ぐるみで盛り上げていく姿勢が必要。美術館を見終わって、帰りに街並みを見ていこうという時に休業のお店が多いと残念である。

出前講座は教育現場からすれば大変にありがたいと思っている。事前に鑑賞の仕方がわかれば、課題をもって文学館・美術館に行ける。ただし、出前講座のスタッフは確保できるのかが心配である。

また料金の設定も気になっている。いつ頃決まるのか。

ユニバーサルデザインについて文言に表れていないが、安心安全な美術館だというアピールが必要ではないか。

○事務局

市内各所で美術館・文学館の案内も行う予定である。観光ボランティアの方への研修会を行い、美術館・文学館を観光巡りのコースに組み込んでもらえるように観光関係とも協議検討していく。美術館のパンフレットの作成を検討する際にユニバーサルデザインの文言についても組み込むよう検討してまいります。

蔵の街プラットフォーム等の都市計画のハード面の充実を行ってきたが、更にソフト面の拡充をしていく予定である。美術館は拠点施設の一つという位置づけですので、全体を盛り上げていけるよう街中の賑わいにつなげていきたいと考えている。

○市長

街全体をエコミュージアムとして考えている。駅前の蔵ナビ、中心地区には山車会館、美術館、文学館、嘉右衛門町のガイダンスセンター等の回遊性をしっかりと持たせることが今後の栃木市の課題である。

○事務局

出前講座はすでに実施しており、先週は大平町にて公民館主催で学芸員により一般の方々へ向け実施している。今後も様々な場で続けていきたいと考えている。本市の4名の学芸員は既に出前講座の準備は出来ている状態であるため、今後も積極的に実施していきたい。

料金設定につきましては、美術館の収蔵品展は330円、文学館の常設展は220円、企画展はその都度教育委員会で上限を2,200円として設定する。

ユニバーサルデザインについては、設計段階から誰もが使いやすい施設として設計整備している。お越しいただいた方への周知は館内表示、パンフレット等で行ってきたい。

○大橋委員

みんなが行きたくなるような展示や企画、ワークショップをお願いしたい。ハードルの低い展示も検討してもらいたい。子供たちにあそこは楽しいところだという意識を持てるような展示をお願いしたい。

○市長

日本の美術館は禁止事項ばかりで子供たちが興味を持ちにくいいため、子どもたちが興味を持てるような展示を検討したい。

○事務局

市民の皆様楽しんでいただくことが非常に大切と考えている。市の文化芸術を楽しく鑑賞できるような展示の工夫をしていきたい。また地元の美術だけではなく、誰もが知っているビックネームの展示も考えている。

○西脇委員

美術館と文学館の間の広場が気に入っている。音楽やフラダンスとかもあったりすれば面白いのではないか。また美術館と文学館を両方見れば料金50円引きとかはないのか。

○事務局

両館の割引入場券は検討しているところである。

また、広場の催し物もミュージアムコンサート等も含め検討している。

4 その他

※事務局から次回の日程等について説明を行った。

5 閉会（11：07）